

パネルディスカッションの概要

○コーディネーター（小池さん）

今回の適正配置計画に対して、パネリストの皆さんから一言お願いします。

○副市長

市の財政状況が厳しい中で、老朽化した公共施設や耐震性にも課題がある施設が多く、また、合併したことから類似した施設もあり、こうした施設の維持管理や更新には過大な財政負担が生じることが予想されます。

一方で、質の高いサービスを継続的、安定的に提供していかなければならないことから、将来に向けた公共施設の整備を計画的に進めていくために、現在、計画の策定作業を進めています。

○関本さん

知事は「行革日本一」をマニフェストの3大公約に位置づけ、さまざまな改革を行っています。公共施設については、施設の見直し方針を作り、施設管理の民間委託化や施設の統廃合を実施し、機能の集約化を図りました。

また、県の施設で機能的に役割が終わったもの、民間で実施しているもの、市町村で施設があるものなどは、その分野から撤退するなど、整理をしたものもあります。

○谷川さん

ふじみ野市は「住み、暮らす」ことが主の住宅都市であると思っています。安全に楽しく、そしてある程度便利に、休日などに楽しく過ごせる、そういったまちであって欲しい。

合併して重複した施設が多いので、施設の統廃合は、どうしてもやらなくてはいけない。市民の皆さんも狭い地域エゴにとらわれなくて、この問題に取り組む必要があると思います。

施設を統廃合すれば必ず不便になりますので、その不便を緩和しなければいけない。たとえば、市庁舎を一つにすることと同時に、窓口サービスは、できるだけ地域に分散するという集中と分散という考え方を持ち込みながら、施設の適正配置を考えていく必要があると思います。

○川田さん

ふじみ野市は合併したことから、類似した施設、また、同じような施設が近くにそろってしまった施設など、合併の特異性があります。市庁舎の統合は必要だと思いますが、アンケート調査でも賛否が分かれた結果となっていますので、あまり性急に物事を進めていくと、時と場合によっては市民の融和を妨げることもあると思いますので、時間をかけて、市民の意見をよく聞きながら進める必要があると思います。

○コーディネーター

次に、統廃合しつつも市民サービスの低下につながらない、市民が利用しやすい施設のあり方について議論をいただきます。

○谷川さん

市の行財政改革推進委員会で行財政改革推進5か年計画を検討したのですが、その中で、施設の統廃合や民間活力の導入は有効な方法と判断しています。ただし、施設の安全性、公平性、平等性、継続性についての比較をしたうえで、行政としての監督と責任が貫かれる手法が必要です。また、施設の種類によっては、PFI（公共施設の整備やサービスの提供にあたって、民間の資金やノウハウを用いて実施する事業手法）が馴染まない施設もあります。

場合によっては、地域住民による管理の方法もある。また、施設を利用する際の制約を取り払うなど、多くの人が多目的利用できる方法を考えていく必要もあるのではないかと思います。

○コーディネーター

県では、どのように市民サービスを低下させずに施設の老朽化や建替えの対応をしているのですか。

○関本さん

知事の考え方に、そもそも公というものは官だけで支えるものではなく、官と民で支えあっていくべきものなのではないかという官民連携の考え方があります。

最近の話ですが、コンビニエンスストアの運営会社と県が包括協定を締結し、今年開催された埼玉総体の実施にあたり1500を超える県内のコンビニエンスストアの店舗で埼玉総体のPRや地産地消の推進などをお願いしました。

施設という点では、PFIなどの民間資金を活用する手法も検討する余地があると思います。

○コーディネーター

市民の目線から考えた利用しやすい公共施設のあり方について、どうお考えですか。

○川田さん

ふじみ野市は、10万都市になった訳ですが、他の10万都市では、面積がふじみ野市の何倍もあり、公共施設も、本市のように狭い区域に配置されているのではなく、相当広い面積のあちこちに配置されています。そういった点では幸せなのかなと思います。

ふじみ野市は、合併したという特殊事情があるので、旧市町の一体感が感じられる、合併してよかったと思える施設整備をお願いしたい。地域によって異なる取り扱いをしている施設もありますので、公平性からも、解消をお願いしたい。

○コーディネーター

今までの話を受けて、市としてどのように市民にとって利用しやすい公共施設にしていくお考えですか。

○副市長

利用しやすいというのは、施設の設置目的であるサービスがきちんと提供できるということが大前提で、行き易いとか、申し込みが簡単だとか、いろいろな点であると思います。

既存の施設については、指定管理者制度を採り入れることにより民間の視点を取り入れ、施設のサービスの向上に努めています。

新たに施設を作るとなると、著しい財政負担を掛けない、PFIなどの新たな手法も検討していかなければならないと考えています。しかし、PFIも万能ではないので、将来的に安定して事業継続が可能かという点を含め検討していきたいと考えています。

また、アンケート調査でも、施設の統廃合による交通の便を懸念されている結果が出ていたので、交通対策についても検討していく必要があると感じています。

統廃合する際には、施設の複合化を検討し、皆さんにとって利便性の高い公共施設のあり方を検討していきたいと考えます。

○コーディネーター

アンケート調査の公共施設サービスに関する要望では、利用日や利用時間の延長を望む声が多いという結果となりました。この点はどうですか。

○谷川さん

上福岡駅前の出張所があまり利用されていないのは、立地条件が良いにもかかわらずもったいない。生活形態も多様化してきているので、開庁日や開庁時間の延長の実施も含め、もう少し活用に工夫ができないか検討して欲しい。

○関本さん

県でも、利用日や利用時間の延長についての取り組みを行っています。創業・ベンチャー支援センターの開所時間を利用実態に合わせ、午前10時から午後8時までと時間帯をずらし、また、土曜日も営業したことで、うまく機能しだしたということがありました。

施設によっては、利用日や利用時間の工夫をすることが必要だと思います。

○コーディネーター

アンケート調査の結果では、8割以上の市民が、利用したことがないという公共施設もある中で、利用日や利用時間の延長などの要望にどう対処していくのか、難しい課題だと思います。

○副市長

市役所庁舎の利用日や開庁時間の延長については、市民の皆さんから要望が寄せられています。生活形態が多様化する中で市民サービスの向上のためにも対応が必要と考えています。転入、転出が多い年度末や年度当初における窓口サービス時間の延長など、現在、実施に向けて検討しています。

○コーディネーター

アンケートでは、複数存在する同種の公共施設を統廃合することについて、6割の市民が総論として賛成しました。一方、両庁舎の統合になると、賛否が拮抗する結果となり、各論的には賛否が分かれました。庁舎の統合については不安視がある中で、一方で財政負担を軽減するためにも実施すべきという意見もあります。

○川田さん

私も、庁舎については、いずれ一本化していかなければならないと考えております。アンケート調査の結果で賛否が分かれているのは、近くにあった施設がなくなり不便になってしまうのではないかとこの不安があると思います。市の財政状況もありますが、今まであった場所にまるっきり窓口機能がなくなってしまうのは、地域の市民にとって不便になるので、ある程度の機能は残す必要があると思います。

○谷川さん

私も市庁舎の統合は、必要だと思います。しかし、ただ、統合するというのではなく、市庁舎は執務スペースという従来の概念を捨て、市民が集いたくなる総合施設として整備したらいい。新しいまちづくりの発想ですね。たとえば、洒落たレストラン、図書館、資料館、集会所等との複合化を図るなども考えられるのではないのでしょうか。

なお、公共施設の統廃合を行った際には、市民の利便性の確保を図るためにも交通アクセスの充実は重要です。

また、窓口サービスの業務内容を極力絞ったうえで、スーパーなどでも窓口サービスが受けられるようになればいいと思います。

○コーディネーター

県下において施設の統廃合について何か先進的な事例がありますか。

○関本さん

県には職業訓練施設があります。その施設で訓練に使用する機械がありますが、古いタイプの機械では訓練の役に立たないということで、新しいタイプのものに更新する必要がありましたが、財政的な問題などからなかなか要望に答えられない状況でした。施設の統廃合をしたことにより、最新の機械を導入でき、より質の高い訓練を行うことが可能となりました。

また、川越市の施設ですが、高階地区に高階市民センターがこの春にオープンしました。出張所のほか、公民館や図書館、児童館が設置された複合施設となっており、市民が集う施設になっています。

○コーディネーター

ありがとうございました。まだ、ディスカッションいただきたいテーマを用意していただいたのですが、時間となりましたので、テーマについてはここまでとさせていただきます。パネリストへのご質問もたくさんいただきたいと思っていたのですが、時間が来てしまっているのと、市の方針なども含めた公共施設の考え方などに対する質問用紙を事前に提出いただいており、それらのご意見を計画策定の参考としていくというプロセスもございますので、お一人ぐらいからもしあれば伺いたいと思います。ここでは、パネリストのご意見に対するご質問ということで伺いたいと思います。

○市民

公共施設の統廃合の話がありましたが、危機管理の面から考えれば施設を分散するという考え方もできるのではないだろうか。

○コーディネーター

この質問については、副市長のほうからお答えいただけますでしょうか。

○ 加藤副市長

ご意見いただきありがとうございます。危機管理の観点からは、確かに機能の分散という考え方もあると思いますが、行政施設につきましては、必要な情報を集約し、対応策を指示するという非常時の中枢機能を持つ必要があります。こういった点からも行政施設については、機能の集約を図る必要があると考えます。

○ コーディネーター

話しも尽きませんが、パネルディスカッションを閉じさせていただきます。このパネルディスカッションを通じて公共施設の適正配置が急務であることが理解されたと同時に、市民との対話の重要性というものも確認できたと思います。

○ 司会

コーディネーターの小池先生、また、パネリストの方々、長時間にわたり貴重なご意見、議論をいただきまして本当にありがとうございました。

次に、時間も押しておりますので、1人、2人のご質問に対する回答になってしまうと思いますが、ご理解いただければと思います。なお、ご質問やアンケートでお寄せいただいたご意見やご要望などにつきましては、十分参考にさせていただきながら、また、市民の皆さんと議論しながらよりよい計画を策定していきたいと考えておりますのでご理解いただけたらと思います。

それでは、いただいた質問に対するお答えをお願いしたいと思います。1つ目ですが、「アンケートの回答が少なすぎる。これで、市民の代表的意見とはとても思えないがどう考えるのか。もっと繰り返して緻密な調査を行わないのか。」という質問です。これについては、小池先生お願いできますでしょうか。

○ コーディネーター

アンケートに関する質問ですが、ふじみ野市のアンケートは、統計学の観点から言いますと、市民の代表的意見としてなんら差し支えがないということになっております。対象者が2000人で回答者が854人です。多いに越したことはないのですが、統計学上は市民の声の代表といっても差し支えがない程度にあるということがいえます。今回は、全体の方針に関するアンケートですので、今後個別の施設の統合等の話になったときには、これはいろいろな形で住民の方の意見を伺っていかなければならないのかな、と思います。

○ 司会

ありがとうございました。もう一つは、「統廃合をする際には、交通弱者対策を併せて実施するべきではないか。」というご意見です。これは、先程の議論の中にもございましたが、改めて副市長のほうからお願いします。

○ 加藤副市長

交通弱者対策ですが、市民サービスの著しい低下につながらないように、施設の適正配置を考えていく中で、交通便利性の確保についても、今後、検討していきたいと思っております。

○ 司会

最後ですが、「建て直しの話が出ているけれども、建て替えを前提とした経費計画が必要で、その概要について市民にお示していただきたい。」というご意見です。事務局からお答えします。

○ 事務局

現在、市では公共施設の適正配置計画を策定しているところですが、この計画の策定後に、今度は個別の施設につきまして、どのような施設にしていくかということ、市民の皆さんを交えて検討していくこととなります。その段階で、経費などをお示ししていければと考えておりますのでご理解いただければと思います。

○ 司会

せっかくご質問をいただきましたので、すべてこの場でご紹介したいところですが、お名前とご住所を書かれている質問につきましては、ご本人へ責任をもって回答申し上げたいと思っております。また、無記名のご質問につきましては、市報それからホームページでご紹介し、市の考え方をお示ししていく予定です。すべて、詳細にというわけにはできませんけれども、同様の回答はある程度まとめさせていただいて回答させていただければと思います。

(閉会)